



御園だより

令和7年度1月号
大田区立御園中学校
校長 古川 大輔



多様性を^{ほうせつ}包摂し、生徒の学びを創造する

お子さまの健やかな成長と自立のために、保護者の皆様とともに生徒が主役の学びを創造してまいります。有意義な一年となりますよう、本年もよろしくお願ひいたします。

近年、OECDが示す「子どものウェルビーイング」に関する調査では、日本の子どもたちの社会的・情緒的発達において、いくつかの重要な課題が指摘されています。「困難に直面した際に解決策を見いだせると感じている」子どもの割合、「努力によって自分は成長できると捉えている」子どもの割合、そして「人生全体に満足していると感じている」子どもの割合のいずれもが、国際的に見て低い水準にあります。こうした結果は、単に個々の子どもの資質の問題として捉えるべきものではありません。日本の社会・文化的背景を踏まえると、自己肯定感や自己実現といった「獲得的な力」と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識といった「協調的な力」を調和的・一体的に育んでいくことが求められます。日本社会に根差した「調和と協調に基づくウェルビーイング」を高めていくことは重要な課題です。

こうした課題意識のもと、本校ではキャリア探究プログラム（MSC）を始めています。MSCの授業後の3年生のアンケートには、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」88.8%、「将来の夢や目標をもっている」73.6%、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」84.7%という肯定的な結果が得られました。すべての項目で全国および東京都の値を上回る結果でした。これらは教科での学習に有効に働くとともに確かな学力の向上に寄与するものと考えています。

生徒たちは、さまざまな分野で力を発揮しています。その活躍の一部をご紹介します。3年生の生徒は「全国中学校総合文化祭東京大会ポスターコンクール」で最優秀賞を受賞しました。3年生の生徒2名は「中学生の税についての作文」で入賞しました。2年生の生徒は「おおたさんご賞」中学生の部で大田区長賞を受賞しました。1年生の生徒は「全国学芸サイエンスコンクール」理科部門で入選しました。生徒会が呼びかけたエコキャップ活動では、数年間で450の回収袋21袋分、約170kgものキャップが集まりました。これは木を35本以上植えたのと同じだけのリサイクルによる社会的な価値を生み出したことになります。小さな行動をみんなで続けることの大切さを学ぶ機会となりました。また、生徒会だよりでは相生小学校100周年にあたり、卒業生がメッセージを届けたことも紹介されました。本校で行われた防災活動拠点訓練に有志の生徒がボランティアとして参加したことを地域の方々は大変喜ばれました。MSCとともにこうした取組からも、生徒一人ひとりが「自分ごと」の学びとして主体性と当事者意識をもって社会と関わろうとしている姿がうかがえます。いわゆる学びの往還です。

さて、生徒のみなさんは、年末年始、自分の時間、そして家族との時間を大切に過ごせましたでしょうか。今年は午年（うまどし）です。馬は、前を向いて力強く進む動物で、昔から成長や挑戦の象徴とされてきました。また、今年の干支は丙午（ひのえ・うま）です。丙という字は、芽が伸び、葉が広がり、勢いよく成長していく様子を表しています。馬と言えば、人間万事塞翁が馬（じんかんばんじさいおうがうま）ということわざがあります。目先の出来事に一喜一憂すべきではないという教えです。今が悪い状況のように思えても、それを乗り越えようと努力することが、後になって良いことにつながるかもしれません。だから、何をするにも心身ともに明るく元気に健康でいることが大切という意味です。日常の生活でも、できないことや思い通りにいかないことがあるかもしれません。しかし、今しかできないことをやってみると、その経験こそが、みなさんを強くたくましく成長させてくれます。学校と家庭、地域はそのためのみなさんの学びの場所です。新しい一年、健康に気を付けながら、仲間と学び合い、粘り強く目標に向かって一歩ずつ進んでください。3年生のみなさんにとって進学に向けた大事な時期であり、中学校のまとめの期間でもある3学期が始まります。一人一人の挑戦と成長を心から応援します。2年生と1年生のみなさんにとっては進級に向けた大切な時期です。御園中生の自慢である挨拶と笑顔を大切にしながら、みなさんがさらに大きく飛躍してくれることを期待しています。

本校ホームページ「Misono Diary」に生徒の活躍、活動の様子の写真を掲載しております。右上のQRコードよりご覧いただけます。また、X公式アカウント「御園中 日々の出来事」を随時更新しております。